

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1-1 住みやすい都市空間づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市の中心市街地においては、郊外型大型店舗の進出等による通行者の減少、個人商店等の後継者不足等による空き店舗・空き地の増加等の理由から、まちの空洞化が進行し続けています。また、市民の憩いの場である公園施設についても、多様化する市民のニーズに応えることができていない状況です。 このような状況の中、まちの顔である中心市街地を再生させるために、良好な地域コミュニティを保ちながら、あらゆる世代の人が快適に暮らし続けられるコンパクトなまちづくりを目指します。一方、公園施設の計画的な更新や改修、新たな広場の整備等により、多様でゆとりのある環境づくりを推進します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・社会情勢に未対応の土地利用 ・中心市街地の空洞化 ・公園施設等の不足、老朽化

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	11 住み続けられるまちづくりを	誰もが住みやすい居住空間づくりと誰もが使いやすい公共スペースづくりにより、すべての人々が住み続けられる都市空間づくりを推進する。	誰もが心身ともに健康で働き、住み続けられるまちづくり
2位	3 すべての人に健康と福祉を	特に商店街等の中心市街地における徒歩、自転車通行者と自動車との交通のすみ分けと子どもから高齢者まで幅広く集える広場空間を創造することで、すべての人々が健康で住み続けられるような都市空間づくりを推進する。	
3位	8 働きがいも経済成長も	中心市街地の活性化により、働きがいのある雇用が促進できるような空間づくりを推進する。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

豊かな自然や静かな生活環境がある(40.7%)>豊かな自然や静かな生活環境がない(1.4%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1－2 人に優しい道路・交通体系づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくれます。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	伊予市内には、JR予讃線の内子線と海岸線回りの2 線が国道と並行して走っており、中心部には松山市内からの郊外電車である伊予鉄道郡中線が敷設されています。また、広域幹線道路としては、国道56号と378号、高速道路としては、四国縦貫自動車道の伊予インターチェンジが市内にあり、松山方面へのアクセスが良いことから、多くの利用があります。 今後は、更なる道路交通網の整備、公共交通ネットワークの確立を図り、市民生活そして物流活動の充実・向上のため、各地域の土地利用状況を考慮した道路・交通環境の整備を推進します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状(課題)

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・未整備区間の多い主要幹線道路 ・高速道路の低い利便性 ・定着していない新しい地域公共交通システム

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	11 住み続けられるまちづくりを	低コストな公共交通網を整備し、市内のどこに住んでいても、移動の不便さを感じないようにする。	伊予市のミチは、ミライにつながってます。
2位	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	主要幹線道路の複線化および、歩道・自転車道の整備を行う。	
3位	3 すべての人に健康と福祉を	歩行者に安全安心な道路環境が整い、福祉サービスが受けやすい交通網とする。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

優先的に取り組んでほしい対策 ①舗装のひび割れや段差などの解消(59.5%)、②カーブミラーや道路標識の設置(16.2%)、③転落防止策などの設置(9.2%) 地域公共交通機関利用状況 ①利用なし、今後利用するかも(70.0%)、②利用なし、今後も利用しない(23.9%)、③何回か利用(2.0%)、④時々利用(1.8%)、⑤よく利用(0.9%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・自動運転、MaaS(Mobility as a Service)をはじめとするモビリティサービス、ドローンを活用した配送サービス等の実装・推進(国)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1－3 情報化社会に対応した基盤づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	近年、各種情報のデジタル化やインターネットなどの普及・発達により、世間に流通している情報量が加速度的に増加するとともに、メディアの世代交代や情報流通の構造変化も急速に進展しています。 このような中、あらゆる世代が的確な情報を素早く入手できる環境を構築するとともに、ICT(情報通信技術)を有効に活用し、市民生活や行政サービスの利便性が向上するよう更なる環境整備を目指します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・ICTの活用とITリテラシーの向上 ・ブロードバンド環境の地域格差 ・ICTの恩恵を享受できる環境と仕組みづくり

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	16 平和と公正をすべての人に	最新の情報ネットワーク網が市内全域に整備され、誰もが安価で接続・利用できる状態をつくる。	誰もがいつでも、どこでも、繋がれる伊予市へ。
2位	4 質の高い教育をみんなに	最新の情報ネットワーク網が市内全域に整備され、誰もが安価で接続・利用でき、それに伴うリスクについても認識できている状態。	
3位	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	最新の情報ネットワーク網が市内全域に整備され、誰もが安価で接続・利用でき、それを利用して市内の事業者が所得を向上させている状態。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1－4 安らぎのある住環境づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	近年、木造住宅の老朽化、人口減少に伴う空き家や廃屋の増加が進み、大規模地震や台風といった災害に備えた住宅の安全確保対策が求められています。また、市営住宅についても、建設から長い年月を経過した物件が多いことから、老朽化に対する取り組みが必要となっています。 今後は、木造住宅の耐震化、空き家・廃屋の適切な取り壊し等を進めながら、安全・安心な住環境の整備に努めるとともに、「伊予市営住宅ストック総合活用計画、長寿命化計画」に基づき、長期的な公営住宅の活用を目指します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・進まない耐震化 ・市営住宅の老朽化及び使用料滞納者対策 ・増加する空き家、廃屋
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		市営住宅・居住家屋ともに耐震化が済んでいる。空き家については、賃借のシステムが構築され、空き家は実質0になっている。	とりあえず、伊予市で暮らしてみれば？
2位		耐震化など安全対策を施した市営住宅が、指定管理者により必要としている市民に提供されている。	
3位		市営住宅のすべて、居住住宅の半数以上が再生可能エネルギーを利用している。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

耐震診断及び耐震改修事業に関する必要な情報取得 ①情報の内容が分かりにくい(29.1%)、②情報の場所が分からず得られない(23.9%)、③情報が不十分である(22.8%)、④必要な情報が得られている(19.4%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1－5 潤いのある水環境づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	【水道】伊予市の上水道の1 日平均配水量は、10,308㎥ /日ですが、供給可能水量は、17,300㎥ /日であり、これまでの最大使用量(平成13年度の1 日平均配水量12,276㎥ /日)を考えると当面は安定供給できるものと想定されています。 しかしながら、未だ主たる水源が地下水であることから、将来にわたって安定した給水を行うため、引き続き、節水型のまちづくりに取り組むとともに、新たな水源開発等の検討を行っていきます。 【下水道】汚水処理については、公共下水道事業、農業集落排水事業等(集合処理方式)及び合併処理浄化槽整備事業(個別処理方式)等の実施、また市街地の浸水防除対策については、大谷、安広、梢川雨水ポンプ場の整備等により生活環境の保全に努めています。 今後は、社会情勢や財政事情を勘案し、地域の実情に応じた下水道事業や浄化槽整備事業等を実施することにより、さらに快適な水環境の創造を目指します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・将来にわたる水量の安定供給 ・中山、双海地域の低い水道普及率 ・汚水処理施設(公共下水道)による整備の長期化

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		水道料金値上げを伴うことなく基幹管路耐震化率を75%を目指し、大規模災害に耐えうる施設が構築されている。	なし・あげ 水道利用。(なし＝水道料金の値上げ、あげ＝基幹管路耐震化率、手入れ山林率)
2位		重信川流域の中予圏域において、新たな水源確保に向けて、関係市町の連携を深める。	
3位		手入れのされていない山林をなくし、急激な気候変動に耐える山林の範囲を増やし、水源の涵養等の環境整備が行われる。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1－6 安全・安心に暮らせる災害に強いまちづくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	今後、発生確率が極めて高く、甚大な被害が懸念される「南海トラフ巨大地震」に対しては、万全の対策が急務となっています。また、台風や近年増加している局地的豪雨は、急峻な地形を有する本市にとって土砂災害のリスクを高めています。一方、原子力発電所において重大事故が発生した場合の避難体制の構築も重要な要素となっています。 このような状況の中、市民の安全・安心の確保のため、防災体制の整備や資機材等の充実を図りながら、市民一人ひとりが「自分たちのまちは自分たちで守る」という防災意識を高め、災害に強いまちづくりに努めていくことが大切です。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・未確立な災害等の情報伝達方法 ・低い防災意識 ・消防団施設、消防団設備の老朽化 ・大規模災害に備えた備蓄物資、資機材等の不足

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	11 住み続けられるまちづくりを	個人から組織、子供から高齢者まで、あらゆるレベルで災害に対する強靱さを目指す社会	【災害に強い伊予市は みんなにやさしい】
2位	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動による自然災害に適応できる教育や啓発を通して、	
3位	15 陸の豊かさも守ろう	山地生態系の保全と、木材の持続可能な利活用を行い、	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

自主防災参加状況 ①参加経験なし(40.8%)、②参加経験あり(30.9%)、③自主防災組織を知らない(11.0%)、④ときどき参加(9.9%)、⑤毎回参加(5.0%) あい愛プラン制度について ①分からない(46.2%)、②知らないが支援したい(32.0%)、③知らないし支援したくない(11.0%)、④知っており登録したい(6.7%)、⑤知っており登録済(1.1%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
・緊急通報が聞こえる有線の整備 ・備蓄品(食料・水など)の用意 ・家庭内での避難場所の情報共有 ・避難場所の移動時間・道順確認	・世代間、近所で話し合いの場を設ける。 ・普段からあいさつをする。 ・近所の家族構成や人を把握する。	・危険地域の把握を行う。 ・防災マップの充実(一家に一冊) ・他市町村の例を真似る。 ・電柱や壁に避難場所(〇m先) ・伊予市でLINEを活用する。 ・防災士による講演会を開く。

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	快適空間都市の創造【基本目標1】
基本計画	1－7 循環型社会構築に向けた環境づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市は、温暖で海・山などの豊かな自然にも恵まれた地域です。これまで、地球環境に優しい生活が送れるように、資源ごみ回収団体の育成・活動の継続を行うことによるごみの分別やリサイクル意識の向上、太陽光発電システムの設置促進等によるクリーンエネルギーの普及・地球温暖化対策の推進に取り組んできました。 今後も、この素晴らしい環境を次世代にも引き継げるよう、様々な施策や事業を実施し、市民・行政・事業者が一体となった持続可能な循環型社会の構築を目指します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・更なるごみの減量化、再利用化の必要性 ・循環型社会構築に向けた体制の未整備 ・太陽光発電システムの導入と限界 ・停滞が予測される環境ボランティア活動

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		家庭ごみの減量、再利用が進み、最終的に処分しなくてはいけなごみが大幅に減少した状態	環境教室や出前講座を開催し、市民だれもが環境問題に対する関心・知識が向上することで、ごみの減量、再利用、適正処理が推進され、あわせて、環境負荷の低いクリーンなエネルギー利用も進み、将来へ持続可能な”クリーン伊予市”が実現できる。 「みんなで共有 環境問題 ごみをつくらない クリーンな伊予市！」
2位		市民だれもが、環境問題に関心を持ち、ボランティア活動や普及・啓発活動に積極的に参画する状態	
3位		再生可能エネルギーの利用が進み、市民だれもが環境負荷の低いエネルギーを利用している状態	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
・購入時に必要性、保存期間確認 ・ごみ置き場を清潔にする。 ・ごみ分別の正しい理解、判断 ・ごみを出さない方法を考える。 ・ビニールひもや水分の削減 ・生ごみの肥料化の仕組みを導入	・近所で必要なものを交換する ・各地区にリサイクル施設を設置 ・段ボール、新聞、雑誌のリサイクル ・寄り合いでごみ処理、エコライフの学習会を実施	・リサイクル、ごみの量を減らすと特典がもらえる仕組みづくり ・スーパーや販売店に家庭ごみを持ち込み可能な仕組みづくり ・リサイクルセンターの設置による雇用、交流の場の創出 ・使える電化製品を市が引き取る。 ・各家庭、市内事業者のごみの実態把握 ・フードロスの活用 ・ごみ焼却場、プラントの整備 ・ESDを通したエコライフの教育 ・浄水場の設置 ・リサイクル、ごみ減量、分別のCM

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・防災面で言えば、安全安心な町だという満足度を上げることが必要

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	健康福祉都市の創造【基本目標2】
基本計画	2－1 次代を担う子供たちの育成支援
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市における出生数は、平成17年から平成20年までは年間260人台で推移していましたが、平成21年と平成23年には240人台まで落ち込んだものの、平成24年からは再び250人台に上昇し、現在に至っています。また、結婚・出産・子育て期に当たる20～39歳人口は、年々減少しています。 このような現状から、地域の中で安心して子どもを産み、健やかに育てることができる環境の整備に努め、本市の将来を担う子どもたちの育成を支援します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・社会環境や子育ての実態に見合っていない施策展開 ・未形成な子育て環境 ・地域と行政との連携不足
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		就学前から、配慮の行き届いた効果的な教育へ平等に選択できる社会	【子どもを愛し 育てた伊予には子どもが帰る】
2位		働きながら子育てができるよう、子供でも利用できる公共交通や公共スペースが提供され、	
3位		経済的理由により保健サービスが受けられない事がなく、	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

子どもを育てやすい(13.8%)>子どもを育てにくい(3.4%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと	
		・子育て環境をもっとよくなる ・女性が働きやすい環境づくり	

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・伊予市で生み育てる環境づくりが大事。しっかり働ける場所があり、長いスパンで子育てしようと思える環境づくりが必要 ・次の世代も伊予市で子どもを育てたいという地域、立派な大人を育てていく環境づくりが必要

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・婚活支援、出産支援 ・出会いの場をつくる・安心して子どもを生み育てる(県)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	健康福祉都市の創造【基本目標2】
基本計画	2－2 生涯にわたる健康づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市では、乳幼児や児童の保護者、重度心身障がい者等に対する医療費助成制度や国民健康保険・後期高齢者医療制度等により市民の医療を支えています。また、伊予市健康づくり計画をもとに様々な健康増進事業を実施し、市民の健康保持・増進に努めています。 今後も、医療費の適正化に努め、各種医療保険制度を持続的・安定的に運営するとともに、初期診療から高度・救急・在宅医療まで安心して保健・医療サービスを受けることのできる環境整備、健康に対する意識の高揚に取り組み、市民の健康寿命の延伸を図ります。	施策の目標（市民が、〇〇の状態となるようにします。）
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		市民が病気の早期発見、早期治療のために健診などを自発的に受ける状態。 市民の健康意識の高まりと重症化予防ができ、医療費を抑制される状態。	美味しく食べて しっかり身体を動かして 今日元気だ 伊予市民
2位		市民ひとりひとりが、自身の健康について意識を持ち、健康を維持できる行動を実践し、男女ともに健康寿命が延びる。	
3位		子どもから高齢者までが、健康的な生活習慣の要となる食事を楽しみながら充実し、生活習慣病の予防と地元食材から地域を大切にする気持ちをもって伊予市で生活している状態。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

・医療費助成額の増加 ・国民健康保険及び後期高齢者医療制度における保険給付費の増加 ・地域医療、救急医療に対する不安 ・健康への取り組みの充実 ・食育の推進

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・心豊かに暮らせる地域づくり(ねんりんピック)(県)
・安心できる環境の整備(ビッグデータを活用した生活習慣予防対策、5Gを活用した医療提供体制の高度化、医療連携の促進)(県)
・適切なオンライン診療の普及、医療サービスの担い手不足に対する遠隔医療の取組(国)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	健康福祉都市の創造【基本目標2】
基本計画	2－3 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市は、全国平均を上回るスピードで高齢化が進行し、高齢化率(総人口における65歳以上の人口の割合)は、平成37年には33.8%まで上昇すると予測されており、要支援・要介護認定者数の増加に伴う介護保険給付費も年々増大するものと思われます。 こうした中、要支援・要介護認定者への適切なサービス提供はもとより、誰もが住み慣れたまちで、要介護状態にできるだけならないよう、健康で生きがいを持って生活できる「やすらぎとぬくもり」のある長寿幸福社会の実現を目指します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・心身の健康に関する課題	・社会資源のマッチングにおける課題	・地域住民が支え合う風土の醸成における課題	・介護保険サービス基盤の維持
--------------	-------------------	-----------------------	----------------

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		高齢者が健康で自立した生活を送ることができる質の高い社会基盤を整備する。	【働きがい → 生きがい → 暮らしがい ➡ いよが いい】
2位		市民を雇用し、全国で収益化できる企業を支援し、	
3位		高齢でも働き甲斐を持って暮らせる産業を促進し、	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと	
・ラジオ体操をする ・歩数を増やす ・趣味を見つける ・おせっかいおばさんになる ・スマホ、PCを使いこなす ・食事の管理	・みんなでグランドゴルフ ・ミカンまる体操をする ・趣味を共有できる場をつくる ・空家を利用する ・地域の行事をつくる ・地域共同の畑で共同栽培	・愛媛大学との連携 ・高齢者と若者の交流のパイプづくり ・公民館使用料をタダにする ・一人暮らし高齢者のマップづくり ・コミュニティバスを使いやすく	・介護サービスの充実 ・インターネット環境の整備 ・公共交通機関の充実 ・施設のバリアフリー化

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・三世代交流イベント

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	健康福祉都市の創造【基本目標2】
基本計画	2－4 心の通った社会福祉の推進
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	少子高齢化による人口減少や核家族化が進行し、一人暮らしの高齢者や障がい者、また高齢者のみの世帯等、地域で孤立する家庭が増加しています。さらには人と人とのつながりが薄れることで地域の活力が低下し、孤立死等の新たな社会問題も出てきています。 誰もが安心して自分らしく暮らしながら、相互に支え合う思いやりのある「まち」となるよう、市民・事業者・行政の協働のもと、地域福祉の新しい体制を構築します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・複雑、多様化するニーズへの対応 ・地域福祉活動の担い手不足 ・行政と地域の未確立な役割分担
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		身近な相談支援体制の整備により仕事が出来なくなった時など収入が確保できなくなった時に速やかに相談や経済的な支援に繋げる	地域で支える福祉のまちづくり
2位		三世代交流やインターネットを活用した情報提供等により病気や加齢に対する知識を深め、病気の予防に努める。入院や要介護状態となる割合の減少。	
3位		インターネットを活用した情報提供の充実やボランティア活動の推進を図る事で障がい者や認知症高齢者等の支援が必要な人に対する理解を深める。それにより、地域で支援が必要な人がいたら早期に支援機関に相談する体制をつくる。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

医療・福祉サービスが充実している(6.3%)<医療・福祉サービスが充実していない(17.3%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと	
・あいさつ＋一言の会話 ・野菜のおすそわけ ・サロンへの参加、誘い合い ・親から子へ助け合いを伝える ・行事の参加	・子ども食堂の実施 ・若者と高齢者が共に行うイベントを増やす ・地域行事の継続 ・シニアへのスマホ講座	・ボランティア参加の促進 ・ネット環境の整備 ・情報発信 ・空き地の市民農園化による交流 ・公民館使用料の減額、無料 ・情報共有からの支援	・学校教育にもっと福祉を取り入れる ・キャリア教育、大人の関わり

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・オンラインではできないホームヘルプ、人材確保が難しい。ヘルパーの重要性を伝え、担い手を確保すること
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと とともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	生涯教育都市の創造【基本目標3】
基本計画	3－1 学校教育環境の整備・充実
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市においても、人口減少、特に少子化は深刻な問題となっています。市内には、市立幼稚園4 園、小学校9 校、中学校4 校がありますが、規模には大きな差が生じています。また、子どもたちを取り巻く環境も近年大きく変化してきています。そのような中、子どもたちが知徳体をバランスよく身につけるとともに、地域を愛し、ふるさとを大切にする心を育んでいくことに精力的に取り組んでいきます。さらには、子どもたちが安心して生活できる教育環境整備にも努めていきます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		質が高く効果的な学習を提供し、時代に即した人材を育成できる教育環境を整える。	【子どもを愛し 育てた伊予には子どもが帰る】
2位		人と人のコミュニケーションを残しつつ情報通信技術を大幅に向上させ、	
3位		教育に対する財政的、技術的、人的支援を通じて、	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

・地域に開かれた学校づくりの必要性 ・「生きる力」を育む学校づくりの必要性 ・安全安心で魅力的な学校給食づくりの必要性

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
	・地域学校協働活動の実施	・地元に誇りを持てる学校教育 ・総合教育会議、市と教委の連携 ・放課後子ども教室、えひめ未来塾を取り入れた地域に根差した教育 ・市内全小中学校のコミュニティ・スクール化 ・地域学校協働活動の取り入れ ・全ての公立学校で学校運営協議会制度を導入

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・学校の規模により教育の進め方はあるが、ある程度充実した学びができる環境をどう作っていくか、ある程度のスパンで考える必要がある ・地域行事に参加している小学6年生の割合、1日1時間以上家庭学習している小学6年生の割合といった指標は見つめ直すべきではないか ・大人数、少人数の学校それぞれ成長の仕方がある。そういう良さをきちんと打ち出していくことが大事

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・教育支援 ・小中学校における、地域の産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」による、地域に誇りを持つ人材の育成を推進する(国)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	生涯教育都市の創造【基本目標3】
基本計画	3－2 誰もが平等な社会づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくれます。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市では、「伊予市人権を尊重する社会づくり条例」に基づき、あらゆる差別の解消・解決に向け、様々な事業を実施・展開していますが、今でも多くの人権問題が存在する状況にあります。こうした状況の中、人権問題に対する理解と認識を深めることにより、市民一人ひとりの人権が尊重され、誰もが安心・安全に生活できる人権と共生の社会の実現を目指していきます。	施策の目標（市民が、〇〇の状態となるようにします。）
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・新たな人権問題の発生

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		不当に排除されない社会	【一度の思いやり 一度のありがとう 一度の握手 が伊予市の未来を紡ぐ】
2位		虐待も差別もなく、誰もが意見を言える、	
3位		誰もが認められ、受け入れる社会を実現し、	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	生涯教育都市の創造【基本目標3】
基本計画	3－3 生涯にわたり学習できる環境づくり
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくります。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市においては、地域特性を生かしながら、各地区公民館や図書館等を中心に様々な教室や講座、またイベントや行事を開催し、市民への学びの場の提供と地域コミュニティの醸成を図ってきました。 今後は、市民が生涯にわたり学習活動を継続していけるよう更なる環境整備に取り組むとともに、その成果が生かされる社会づくりに努めていきます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・住民ニーズ等に沿っていない学習内容 ・学習成果の未活用 ・図書館及び他の関連施設の不明確な位置付け
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		ボランティアやNPO、行政も含め、指導者の発掘、育成体制が整備され、様々な世代の様々なニーズに対し、もれなく生涯学習の場が提供できるコミュニティが確立。生きがいつくりから地域発展。	安心、安全 自他共栄のまち い よしがいいね。
2位		生涯学習環境の拡充により、市民によるボランティア組織の構築等、顔の見える地域コミュニティが発展、住民同士が手を取り支え合う安全で住みやすいまち。	
3位		行政による関係団体や市民等の繋がりを強化、コミュニティ推進の中核的な存在に。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
・地域の学習会、コミュニティへの積極的参加(世話役の引き受け) ・施設の利用回数を増やす ・地域学習(地域の歴史、史跡) ・環境学習、奉仕体験、自然体験 ・得意分野で講師のサポート ・学習意欲を高める	・愛媛大学と伊予市の連携の可能性を探る ・教育機関のサテライト設置 ・1回の使用料で複数施設利用可 ・学びたい事項の要望アンケート実施 ・子どもを中核とした世代間交流	・教育機関同士の繋ぎ役の統括組織をつくる ・行政から企業へ連携、協力を依頼 ・学習活動の内容把握、分類 ・生涯学習推進のための人材育成 ・外部の文化活動の連携・交流調整(演芸会、コンサート、講演会) ・公民館組織を中核とした住民主体の自治組織をつくる ・施設の存在(詳細)を知らせる ・生涯学習のためのハード・ソフトの充実(IT、サテライト、連携など) ・私立小・中学校の誘致 ・生涯学習×地域活性化の政策

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	生涯教育都市の創造【基本目標3】
基本計画	3－4 誰もが親しめるスポーツ・レクリエーションの振興
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくれます。【未来戦略1】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	生活の合理化による余暇時間の増大、高齢化の進行など社会環境が多様化する中で、生きがいづくりや健康増進、体力の向上など、スポーツの果たす役割はますます増大しています。 2017年の国民体育大会では伊予市においても、バレーボール・ホッケー・ビーチバレーなど多くの競技が開催されることから、これを契機として市民が主体的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組める環境を一層充実させる必要があります。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・スポーツをしない人の増加 ・スポーツ等に親しむための施設や指導者の不足 ・競技力向上方策の未確立

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		各種スポーツの全国大会出場経験のある方が、全世代の方の年齢に応じた、スポーツの楽しみ方、高い技術を伝える。	人＋スマホ 運動できます。
2位		各種スポーツの経験、技術を身近に受けれるようにICT等を活用し全国の団体との連携をより深める。	
3位		希望するすべての人の健康データをICT等を利用し、共有することによって、健康リスクの早期警告やリスクの軽減管理が行える。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・スポーツイベントの実施 ・サイクリングイベント

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	生涯教育都市の創造【基本目標3】
基本計画	3－5 個性豊かな文化の振興
未来戦略	3万人が住み続けられる環境をつくれます。【未来戦略1】



伊予市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	伊予市には豊かな自然と歴史に育まれた多様な地域文化、数多くの県・市指定文化財や埋蔵文化財包蔵地があります。 今後はこうした文化や文化財を後世に確実に受け継いでいけるよう、市民が芸術・文化を身近なものとして、今まで以上に親しみ、自ら取り組める環境づくりを進めていきます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	 4 質の高い教育をみんなに	地域文化の担い手をはじめ、地域産業に合った職業的技術を学び、身に着けることができる社会	【千年の文化財 百年の産業 十年の記録が未来の伊予市の道しるべ】
2位	 11 住み続けられるまちづくりを	多様な文化財の保護保全と、施設の整備充実による文化的情報の発信により、	
3位	 13 気候変動に具体的な対策を	文化的財産を災害から守る方策を確立し、	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

・地域文化の担い手の確保 ・文化財、伝統行事の保存、承継 ・市民活動の多様化、細分化への対応
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
・SNSで感想を書くなど、個人の情報発信の活発化 ・伝統文化に興味を持つ	・インパクトのある映像を撮影し、発信する ・参加機会を保证する ・世の中の流れに乗せた発信	・市のホームページに文化財情報をまとめて載せる ・ユニークな文化の発掘、紹介 ・小、中学校との連携 ・文化資源を生かしたツーリズム ・文化財をめぐるツアーの作成

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・心豊かに暮らせる地域づくり(芸術文化活動などの障がい者の社会参加、国際映画祭などによる優れた芸術に触れる機会や文化活動を体験する機会の充実)(県)
--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	産業振興都市の創造【基本目標4】
基本計画	4－1 魅力ある農業の振興
未来戦略	3万人を支える産業を育てます。【未来戦略2】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市の総農家数は2,658戸で、新伊予市発足後10年が経過する中、約200戸あまり減少しており、今後も高齢化等により更なる就農者・担い手の減少が進むと想定しています。また、近年、野生鳥獣による農作物等への被害の拡大、ため池・農道・水路といった農業用施設の老朽化等、農業を取り巻く状況は厳しい局面を迎えています。 このような状況下において、新規就農事業の充実、担い手の育成支援等により、後継者の確保・育成に努めるとともに鳥獣被害防止対策の実施、農産物の特産化に取り組み、農業経営の安定化を目指します。また、交付金を効果的に活用し、農業用施設の適切な維持管理を推進します。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・担い手不足の深刻化 ・野生成鳥獣による農作物等の被害の拡大 ・伊予市農産物の低い知名度 ・利用が進まない体験型観光施設 ・老朽化した「ため池」に関する対応
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		指導者、新規就労者等の育成環境、労働環境改善のための制度が整備され、農業従事者が若返り。特産品の開発、販路開拓により伊予市ブランドが浸透。それにより農業生産性及び所得が倍増する。働きがい、魅力がある農業推進により遊休農地等の解消。	農業するなら伊予市がいいね
2位		生産性、自給率共に向上。魅力ある農業の推進により、生活困窮者、障がい者等に対する農業関係の雇用機会が拡大。安定した所得、食糧確保ができることにより栄養状態が改善。	
3位		農業振興への取り組みにより、農地や森林、ため池等が整備され、また、先を見据えた詳細な土地利用計画、制度等の策定により、保全、管理が適切にできる。持続可能な農業推進が自然、生態系の保護にも起因。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

働く場所が多い(1.0%)<働く場所が少ない(29.3%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・次世代ファーマーサポート事業に関し、伊予市独自の補助金を創設してほしい。周辺市町に補助制度があり、新規就農を紹介しづらい

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・6次産業化 ・自動走行トラクターや自動水管理システムなど、ロボット、AI、Iotなどの先端技術の活用による作業の省力化・自動化(国) ・データの収集、活用による生産性の向上、高品質な農産物の安定生産を可能とするスマート農林水産業の推進(国)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	産業振興都市の創造【基本目標4】
基本計画	4－2 持続的な林業・水産業の振興
未来戦略	3万人を支える産業を育てます。【未来戦略2】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	【林業】本市においては、土地面積の約60%を森林が占めており、このうち、スギやヒノキを主体とした人工林については、伐期を迎えています。これらの森林に対する適切な間伐等を行うことが重要な課題となっていますが、様々な理由により森林整備が遅れているのが現状です。 今後は、森林を適切に保全・管理するとともに、林業を支える担い手を育てる環境の構築を目指します。 【水産業】本市では、伊予灘を漁場とする小型底引網、巾着網、立て網、サワラ流し網、ローラー吾智網等を使った漁が盛ん行われていますが、近年、資源の乱獲、海の汚染、漁場の競合など漁業資源の減少とともに、漁業の生産量は減少傾向にあります。 こうした状況の中、水産資源の育成と持続的な生産を維持するため、意欲ある若い担い手の確保、また適正な施設整備に努めていきます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・遅れている森林整備 ・林道の維持管理費の増大 ・漁業後継者の不足 ・漁港施設等の老朽化
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	2 飢餓をゼロに	市内の林業・水産業者が、生産性を高め、質の高い生活を維持できる所得を得ることができている。	豊かな林業、豊かな漁業
2位	14 海の豊かさを守ろう	小規模な林業・水産業者が、後継者を得て収益を上げつつ事業を継続している。	
3位	15 陸の豊かさも守ろう	小規模な林業・水産業者が、後継者を得て収益を上げつつ事業を継続している。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

働く場所が多い(1.0%)<働く場所が少ない(29.3%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	産業振興都市の創造【基本目標4】
基本計画	4－3 活力ある商業・工業の振興
未来戦略	3万人を支える産業を育てます。【未来戦略2】



伊予市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	【商業】本市において、伊予地域ではJR伊予市駅前街の交流拠点施設「町家(まちや)」の指定管理者である㈱まちづくり郡中が中心となり、中心市街地の活性化に取り組んでいます。一方、中山地域や双海地域では、若者の流出による過疎化の進行に伴う購買力の低下、商業者自身の高齢化と後継者不足による経営力の弱体化等により、商業環境は非常に厳しい状況にあります。 今後は、市内各地域の商業や商店街に活気を取り戻すとともに、若い世代が創業できる環境づくりに努めます。 【工業】本市において、伊予地域は農村地域工業等導入促進法等により4箇所に工業団地を造成する等、優良企業の誘致を推し進め、生産量全国第1位を誇る削り節を製造する大手企業も操業しています。一方、中山地域では、電機・プラスチック関連企業等、双海地域では、水産加工業を中心とした零細企業が操業していますが、まだまだ地域住民にとって安定した雇用創出に結びついていないのが現状です。 今後は未利用となっている県埋立地への企業誘致を進めるとともに、既に立地している企業の留置対策、新規創業・起業支援等に努め、地域経済の振興・発展を図っていきます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・商店街の衰退 ・空き店舗等の増加 ・進まない企業進出

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	8 働きがいも経済成長も	中心市街地が、新規の创业者の増加により競争が生まれ、市内全体が活性化している状態。	チャレンジできるマチ、伊予市。
2位	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	金融機関による継続的な支援を受けた新規创业者が、市内の産業振興の牽引車となっている。	
3位	12 つくる責任 つかう責任	既存・新規に関わらず、すべての市内事業者が、食品ロスをはじめとする廃棄物の削減に取り組み、成果を上げている。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

働く場所が多い(1.0%)<働く場所が少ない(29.3%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
・伊予市で消費 ・伊予市の食材を積極的に買う ・SNSを通して伊予市の認知を図る ・伊予市で働く ・伊予市の有名スポットを巡る	・楽しい場所をつくる(音楽、飲食、文化など) ・地元についての教育 ・キャリア教育 ・市について討論する	・学校教育で市内で働く魅力付け ・市内企業を知ってもらう(訪問) ・インターネットによるPR、CM ・企業の誘致、空き地の紹介 ・女性が働きやすい環境づくり ・地元企業とのコミュニケーション強化 ・新規企業のサポート ・市の強みを生かす政策づくり ・観光スポット、コースの充実、観光収入の増加 ・名物をつくり、発信、拡散 ・高齢者が働き続けられる環境 ・IT人材養成センターの充実

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・空き店舗を活用する技能を持った人が取り組める空き家の情報発信を積極的に行うこと ・市の商店街の貸し家と連携、活用ができればチャンスになる ・消費の循環率を計画に入れて進めてもらいたい
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・インキュベーションによる市内創業 ・地元就職 ・空き店舗、空き家活用 ・地域に働く場所をつくる、人を呼び込む(県) ・サテライトオフィスの設置による「ひと」の呼び込み(国)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	産業振興都市の創造【基本目標4】
基本計画	4－4 賑わいのある観光の振興
未来戦略	3万人を支える産業を育てます。【未来戦略2】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市には、調和のとれた自然豊かな環境を活かした心落ち着ける観光スポットに加え、地域活性化の一環として実施される数多くのイベント事業があり、市内外から幅広い世代の観光客が訪れます。 今後は、広域的な観光ルートの整備、観光宣伝などに注力するとともに、受け入れ体制を充実させながら「見る」観光から地域資源を活用した「参加・体験型」「滞在・着地型」の観光へ発展させていきます。また、新たな観光の担い手となる新規ガイドの育成にも取り組みます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・持続性に欠ける観光策 ・受け入れ体制の整っていない観光施設 ・少ない観光ガイド
--

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	伊予市の温かみを感じられ、ゆったりとした時間を過ごしながらか楽しみもある観光ツアーなどで参加した観光客が『また来たい、何回来ても楽しめる』と言ってもらえる状態	また来たい いつでもおいで 観光客と市民が声かけあえる 見所ある伊予市に
2位	11 住み続けられるまちづくりを	観光客が楽しみながら地元色あふれる買い物ができ、週末には様々なイベントや催しで市民も参加する行事などで、人が行き交う商店街が復活する状態	
3位	6 安全な水とトイレを世界中に	安心して観光でき、市民も利用しやすい観光スペースとして、自由に安心して気持ちよく利用できるトイレが整備され、観光客が「伊予市はトイレまできれいだっ」と口コミで評判が広がる状態	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

娯楽・レジャーが充実している(1.0%)<娯楽・レジャーが充実していない(24.8%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと
・市内消費、公共交通機関活用 ・友人を招待、泊める ・市の良さ、魅力を考え直す ・地元を知り、楽しみ、自慢する ・小さな夢を口に出す ・町の人と話す、イベントに参加 ・若者のSNSによる発信	・限定的でも店をつくる ・観光資源の生かし方を考える ・中山栗の栄養など魅力を公表 ・鯉節香る町のアピール ・釜揚げシラスは最高のアピール ・地元の魚をおいしく食べる	・観光マップ、観光案内所の整備 ・自然を生かしたツーリズム ・SNSで周遊情報、市内自慢 ・企業誘致(店を増やす) ・しっかりとした情報発信 ・宿泊施設を増やすための支援 ・双海、中山に光ファイバー設置 ・やるならちゃんとやる、中途半端 ・インバウンド向けの多言語対応 ・観光地の点を線でつなぐ ・サイクリング文化への参加 ・毎年開催の集客イベントの工夫 ・情報発信ボランティア、ハッシュタグ付きの毎日アップロード

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・海はグランピング施設の整備や道の駅のホテル建設事業の誘致を研究すること。山にはキャンプ場を整備してほしい。南伊予駅周辺には鉄道オタクを対象としたカフェ、施設ができないか。土産は栗きんとん、日持ちがしない、そこに行かないと買えないような商品を開発してほしい
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・道の駅の年間販売額 ・市内宿泊者

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	産業振興都市の創造【基本目標4】
基本計画	4－5 食と食文化を活かしたまちづくり
未来戦略	3万人を支える産業を育てます。【未来戦略2】



伊予市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市には、豊かな自然に育まれた「食材」と「食文化」という魅力的で大きな可能性を持った地域資源があります。これら地域資源を有効に活用しながら、伊予市を全国に向け発信することで、知名度の向上及び交流人口の拡大、また地域の活性化を図ろうと、様々な事業を実施しています。 今後は、伊予市のイメージをブランドとして定着させるよう更なる情報発信に努めるとともに、食育や地産地消にも精力的に取り組む、市民・事業者等との協働のもと、「食と食文化のまち伊予市」を創り上げていきたいと考えています。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・上がらない知名度 ・進まない販路開拓 ・地域資源となる人材の固定化及び高齢化

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位		新たな特産品開発により伊予市の特産品を使ったオリジナル商品を開発する。その手法やモデルをセミナーや講演会で他市町村にも広めていく。商品開発により雇用の促進も図る。	地場産品を守り食育が広まるまちづくり
2位		食育の推進を行い、食の重要性や世界の食糧事情を学ぶ機会を増やしていく。それにより食に対する理解を深め、残食や食品ロスの削減につなげる。	
3位	 	新規就農者や就漁者等の次代の担い手を確保、育成し伊予市の特産品の基礎となる農業や漁業を維持していく。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

ますます、伊予市。ブランド認定品について ①知らないが興味はある(53.8%)、②知っていて購入したことがある(16.7%)、③知っているが購入したことがない(15.3%)、④知らないし、興味もない(11.5%)、⑤知っていてよく購入する(1.4%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・地産地消(地元産食材の積極的な購入など)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	参画協働推進都市の創造【基本目標5】
基本計画	5－1 市民が主役のまちづくり
未来戦略	3万人の力を結集できる意識改革を行います。【未来戦略3】



伊予市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市では、平成22年に自治の基本理念や行政運営における方向性等を定めた自治基本条例を制定し、同条例の規定に基づいて、市民自らが考え、共に助け合い、行動する「住民自治」を積極的に進めてきました。 今後は、市民が主体となり、団体、企業、行政などの相互協力のもと、地域の実情に見合ったまちづくりを行えるような環境を構築します。また、I・U・Jターン者等の移住者を快く受け入れる気運の醸成、サポート体制の強化・充実に努めます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・「住民自治」に対する関心・意識の低さ ・地域づくり団体等との不十分な連携 ・移住受け入れに対する理解不足

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	16 平和と公正をすべての人に	すべての人々がまちづくりに参加し、地域レベル、市全体レベルにおいて住民の総意が反映されたまちづくりを推進する。	誰もが参加、誰もが発信、市民が まるごと主役のまちづくり
2位	10 人や国の不平等をなくそう	すべての人々がまちづくりに参加することで、地域の発言力や特色を強めることで、自分たちの地域に合ったまちづくりを推進するとともに、移住者がより参画しやすく、誰もが排除されないまちづくりを推進する。	
3位	5 ジェンダー平等を 実現しよう	男女関係なく参画し、誰もが発言できるようなまちづくりを推進する。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

自治基本条例について ①知らない(64.2%)、②聞いたことあるが内容は知らない(23.9%)、③ある程度知っている(5.0%)、④分からない(4.0%)、⑤知っており条例を読んだことがある(0.4%) 地域の団体同士の連携進捗について ①あまり感じない(31.7%)、②分からない(25.7%)、③感じない(20.9%)、④まあまあ感じる(19.1%)、⑤非常に感じる(1.6%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと	
		・移住希望者の移住サポート	

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと ・移住者を増やすためにもサテライトオフィスやテレワークの設置、紹介を進めること ・地域の特徴を踏まえて、移住を希望する人たちの相談に乗ることができると良い
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

--

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	参画協働推進都市の創造【基本目標5】
基本計画	5－2 男女共同参画社会の実現
未来戦略	3万人の力を結集できる意識改革を行います。【未来戦略3】



伊予市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、男女が対等な立場で、社会のあらゆる分野に参画し、責任を分かち合う社会の実現が重要となっています。本市においても平成19年に「伊予市男女共同参画基本計画」を策定し、様々な施策を実行してきました。 今後も男女共同参画社会の実現に向け、従来の施策の充実・強化、また、新たな事業の実施・推進に取り組んでいきます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・なかなか進まない政策形成の場への女性の進出 ・明確になっていない事業内容や工程 ・成果の見えない人材発掘や指導者養成

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	5 ジェンダー平等を実現しよう	総合計画通りの状態になっていること。	ジェンダーにとらわれない明日をつくろう。
2位	16 平和と公正をすべての人に	市議会議員の半数が女性になるなど、目に見える形で男女共同の社会が実現している。	
3位	17 パートナシップで目標を達成しよう	市議会議員の半数が女性になるなど、目に見える形で男女共同の社会が実現している。	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

各団体のリーダーが育っていると感じるか ①分からない(36.7%)、②あまり育っていない(28.6%)、③育っていない(16.0%)、④ある程度育っている(14.6%)、⑤育っている(2.2%)
--

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・誰もが活躍する地域社会の推進(国)

○ 将来像と基本構想・基本計画及び未来戦略

将来像	まち・ひと ともに育ち輝く伊予市
基本的な考え方	まち・むらにあったまちづくりを進めます～まちからむらへ 今から未来へ～
基本構想	参画協働推進都市の創造【基本目標5】
基本計画	5－3 効率的で透明性の高い行財政運営
未来戦略	3万人の力を結集できる意識改革を行います。【未来戦略3】



○ 本市の現状と目指すべき方向性

本市の現状と目指すべき方向性	本市は、合併を機に地方債や地方交付税の特例など国の財政支援を受けてきましたが、これらの支援策により膨張した財政規模は標準的な市町村の枠を超えるものであり、このままでは財政運営は立ち行かなくなる可能性が生じています。 今後は、この10年で膨張した財政規模を縮小させるとともに、公共施設の再配置、行政評価制度の見直し等を推し進め、持続可能で健全な組織体制・財政基盤を確立することが急務であると考えます。	施策の目標(市民が、〇〇の状態となるようにします。)
		施策を取り巻く現状と課題

○ 第2次総合計画(前期)で掲げる課題

・厳しさを増す地方財政状況 ・公共施設の老朽化 ・期待された効果を残していない行政評価制度

○ SDGs推進プロジェクト委員からの提案

重要度	ゴール	SDGsの目標年(2030年)までに達成すべき目標(あるべき姿)	キャッチコピー(目指す姿)
1位	16 平和と公正をすべての人に	政策(事務事業)や財政状況の透明性と公正さが高い水準で確保され、市民の意志が政策に高度に反映される状態	政策や財政状況の透明性と公正さを高い水準で確保し、行政だけでなく、市民、団体等が協働し、相互理解の下、行財政改革を断行することで、必要性の高い公共サービスを維持、継続する。 「行政も市民も団体も 一緒に考え分かち合おう 持続可能な行政サービスを！」
2位	11 住み続けられるまちづくりを	公共施設の適正配置が進み、効率的な施設運営が行われることで、必要性の高い公共サービスが持続できている状態	
3位	17 パートナシップで目標を達成しよう	財政状況が厳しい状況から確変するために、行政だけでなく、市民、団体等が積極的に協働し、相互理解が高まった状態	

○ 市民満足度調査結果(特記事項)

職員の挨拶や対応 ①まあまあできている(42.8%)、②よくできている(32.6%)、③分からない(9.5%)、④あまりできていない(8.1%)、⑤できていない(4.1%)

○ 市民討議会からの提案(市民満足度の低い施策に対して討議、関連内容は別途記載)

市民でできること	コミュニティで取り組むこと	市全体(又は愛媛県)で取り組むこと

○ 総合計画策定審議会委員の意見(関連分野のみ)

・(共通)市民満足度調査を見ると、行政の施策に対して満足しているかどうかである。市民の身近なことを聞くことによって、満足度を測るべき。その点からも、人の幸せ、幸福度を高めることを究極の目標として、そこを狙った施策を考えていくこと
--

○ 総合戦略(雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、安全・安心な暮らし)、第2期戦略(国・県)において、付加する検討の必要がある施策・指標

・松山圏域での取り組み ・大学連携 ・SDGsの達成に向けた取組を行う(県) ・地域におけるSociety5.0の推進、地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり(国) ・地方への資金の流れの創出・拡大(企業や個人による寄附、投資等)(国)
